

教育装置としての自転車、そしてシェアサイクルへの期待

文

茨城大学工学部都市システム工学科 教授

金 利昭

一般社団法人 日本シェアサイクル協会

事務局：TEL 03-3663-6281 URL <http://www.gia-jsca.net>

「移動(moving)」は「感動する(move)」ことである。その意味で、移動は人間にとって根元的な欲求と言ってよい。移動または移動空間は、子供にとっては遊び・運動・冒険・社会学習であり、大人にとっては気分転換・情報収集、高齢者にとっては健康維持・社会参加・自己同定の場であろう。このような移動の意味的側面すなわち移動することによる人間の精神的・身体的利点あるいは交通の社会文化的側面を考えれば、これまでとは異なった交通社会が描けるであろう。バスや鉄道での移動時間や空間は、日進月歩の情報機器を使うことによって既に「移動」ではなく「活動」するための時空間に変質しているし、先進的なコミュニティバスに見られるように社会交流の場として積極的に位置づけてこのためのデザインを工夫すれば「コミュニティ空間」として活用することができよう。本稿で主張したいことは、移動に必然的に付随する様々な行動、特に交通ルールや他人との交流・マナーに着目して、移動の時間や空間を子供や大人の社会学習・教育の場、文化創造の場として積極的に位置づけられるだろうということ、自転車はそのための教育装置として最適な手段だろうということである。

筆者はこれまで20数年にわたり人々の思い出や意識から移動の意味あるいは価値を探ってきた。ここでわかったことは、移動には「健康(によい)・運動(になる)」「風景(を楽しむ)・情報(を得る)」「気分転換(になる)」など、人々にとって意味・価値のある利点が多数備わっているということである。自転車は「風を切る楽しさ」「風景を見て楽しむ」「新しい発見がある」などの意味的能力をたくさん有していること

は言うまでもない(表-1)。また人々の自転車に対する思いを世代別に見てみると、「自転車が遊び道具だった」「自転車が大切なもの(宝物)だった」「新しい道や知らない場所を発見した」「自転車に乗っていて空気が気持ちいいと思った」などの体験は、小学校期から中学校期を経て高校期まで多く、青年期、中年期では大きく減少し、壮年期、高齢期で再び増加する。そして子供の頃の体験は、以降のステージに影響を与え継承されるようである。

ここで移動手段の能力を整理すると表-2のようになる。従来から言われている安全性、利便性、経済性等を「機的能力」とし、「健康によい」あるいは「風景を楽しむ」といったことを「意味的能力」と分類している。意味的能力は一般常識として言われてきた

歩き

- | | |
|---|--------|
| ・カマキリの卵を見つけた。孵化しそうだったので家に持って帰った。 | 小学校低学年 |
| ・学校帰りに友人達といろいろ違う道を、話をしたり、遊んだりしながら学校から帰った。 | 小学校高学年 |
| ・初めて住む場所がどのような所かを知りたく、市街地を歩き回った。知らない道を歩くと子供の頃を思い出す。 | 大学 |

自転車

- | | |
|--|--------|
| ・自転車で散策し、知らない道・新しい場所をよく発見した。 | 小学校高学年 |
| ・通学途中、突然の雨に降られた。近所の見知らぬ人が傘とタオルを貸してくれようとしたが、遠慮してしまった。 | 高校 |

車

- | | |
|------------------------|----|
| ・友人と話をしながらドライブして楽しかった。 | 大学 |
| ・事故を見掛けたり、事故に遭いそうになった。 | 大学 |

電車

- | | |
|--------------------------------------|----|
| ・利用していた電車にいつもきれいな女の人に乗っていて気になった。 | 高校 |
| ・電車に乗ると中学の頃の友達に会えて嬉しかった。 | 高校 |
| ・電車から見える建設物が毎日少しずつ完成していくのを見るのが楽しかった。 | 高校 |

バス

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| ・初めてバスに乗った時緊張した。乗り方がよくわからなかった。 | 幼稚園 |
| ・車内で見知らぬお婆さんに席を譲った。 | 中学 |
| ・真夏に、ぎゅうぎゅう詰めのバスに乗ってしまい、つらい思いをした。 | 高校 |

表-1 大学生の移動の思い出。移動には意味がある、学習・教育機能があることがわかる。

機能的能力	意味的能力
010 安全性(交通安全性)	110 思索(考え事・準備)
020 防犯性	120 健康・運動
310 防災性	130 気分
030 速達性(所要時間)	131 楽しい・気持ちいい・好き
031 はやさ	132 気分転換
032 時間の有効活用	133 ストレス解消
033 その他	134 スリル・スピード感
040 低廉性(経済性)	135 生活のリズム
050 確実性(信頼性)	136 その他
051 確実性	140 自由・季節
052 渋滞	141 自然・季節
053 その他	142 植物
060 自由性(随意性)	143 動物
061 主体属性(荷物・グループサイズ)	144 その他
062 付帯行動(音楽・本・睡眠・アルコール)	150 風景・情報
063 時刻	151 風景
064 行動範囲(距離・坂道)	152 周辺認知(周辺観察・行動範囲)
065 ルート選択(寄り道・狭所)	153 情報収集
066 スピード(自分のペース)	154 発見
067 天候	155 学習
068 便利	156 その他
069 その他	160 コミュニケーション
070 簡便性	161 子供
071 接続(乗り換え・アクセス)	162 家族
072 駐車・管理	163 知人・友人
073 楽・気楽・手軽・面倒でない	164 見知らぬ人
080 快適性	165 ペット(犬など)
081 身体的制約	166 社会学習
082 疲労	167 自己顕示
083 移動環境(音・光・混雑・温度)	168 その他
084 プライバシー(他人の目・服装)	
090 環境適合性	

表-2 移動手段の能力(機能的能力と意味的能力)



図-1 デンマークの小学生の自転車教材。他者へ迷惑をかけてはいけないことを教えている。2008年収集



写真-1 家族の休日レジャーを兼ねた子供の自転車交通教育(東京内堀通りの自転車天国 2016年)

ことも多いが、観光・レジャー交通を除いて都市交通計画ではこれまでまったく無視されてきたと言ってよい。徒歩の移動では「健康・運動」「風景・情報」が多く、自転車では「健康・運動」、車、バス、鉄道では「気分」「風景・情報」が多いなど、移動手段には異なった意味・価値を発現させる能力がある。移動手段が持っているこのような意味・価値を発現させる潜在的な能力は、徒歩が突出して高く、次に自転車であり、車、バス、鉄道は必ずしも高くはない。またこのような移動の意味・価値を目的別に見てみると、通勤通学→買い物→散歩・ドライブの順に「健康・運動」「気分」といった意味・価値が強くなることから、移動の意味・価値は目的によって差異があり、制約の少ない目的ほど意味・価値を伴っていること、また現状の移動には満足せず、理想とする移動には意味・価値を求めているということがわかってきた。さらに現状の移動において「楽しかったこと」を調べてみると、「健康・運動」「気分」に加えて、「自然(に触れる)・季

節(を感じる)」「風景・情報」「発見(がある)」「コミュニケーション(がとれる)」という多くの意味が見いだせることから、移動には通常では意識されにくい多くの意味が潜在している可能性もわかってきた。

その一つが「コミュニケーション」に分類した「社会学習」であり、「交通ルールや社会のルールを学べる」という意味である(図-1、写真-1)。すなわち交通規則やマナーは交通安全のために必要であるが、加えて社会で生活していくためには様々な規則やマナーが必要であること、そしてそれを守ることが大切であり、そのような市民意識を醸成する市民教育の場として移動(場)を位置づけることが重要だと思うのである。自転車利用に際しても社会文化的には、自転車を教材として良き市民を育成するという観点に着眼すべきであろう。自転車を子供や大人の教育装置として位置づけること、街なかで他者と共有するシェアサイクルを「社会への扉・学習場・教育場」として積極的に位置づけることを期待したい。

PP